

主要施策名:(2)水産業の振興

事務事業本数:6

基本目標(章)	主要施策(節)	施策区分	事務事業コード*	事務事業	所管課
③賑わいと活力ある産業づくり	(2)水産業の振興	(2)漁業生産の向上	322-1	水産振興事業	農林水産政策課
		(1)漁業・水産基盤の整備	321-1	水産資源保全事業	農林水産政策課
			321-2	漁港管理事業	農林水産政策課
			321-3	漁港整備事業	農林水産政策課
			321-4	水産物供給基盤機能保全事業	農林水産政策課
			321-5	緊急自然災害防止対策事業(漁港防災)	農林水産政策課



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H30実績	R01実績	R02実績	R03計画
① 市水産連絡会議業務	総会等により水資源の現状報告、水産振興事業の計画の報告等を行う。	総会等開催回数	回	1	1	1	1
② 水産基盤整備交付金事業(共同利用施設)	漁協所有の共同利用施設整備に掛かる経費を(1/3以下)補助する	補助件数	件	***	2	1	1
③ 水産振興関係団体負担金業務	負担金を支出して水産振興を支援する。	負担金支出団体数	団体	6	6	6	6

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算
	対象(漁業者数(正組員))	217	181	161
投入コスト合計(千円)	3,907	10,504	4,050	3,682
対象1単位あたりのコスト(千円)	18	58	25	23
コスト評価(対前年比)	***	31.02% (↓)	230.70% (↑)	109.99% (↑)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H30目標	R01目標	R02目標	R03目標
			H30実績	R01実績	R02実績	R03計画
1 漁協組員数	4漁協の市内居住正組員数	人	209	217	181	161
2 主要水産物の生産額	主要水産物(ノリ・アサリ)の売上高	億円	20.29	16.94	22.50	17.86
* 成果未達成時の理由			漁協正組員は高齢化の影響で減少した。アサリ漁獲は依然として皆無で、海苔売上は新型コロナウイルス対策で飲食店の需要が減少した事もあり、販売額が減少した。			

《事務事業の評価》

	評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ多くの対象の生活や活動等に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input checked="" type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
効率性 【22】	<input checked="" type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い a
有効性 【23】	<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い c
公平性	<input type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる <input type="checkbox"/> ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由(受益者負担はなじまない) 【24】	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	特に無し			
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 終了	総合判定 C
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	アサリ資源回復と水産業の発展を図るため、今後も事業を継続していく。			
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)			

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	県営水産環境整備(覆砂)事業に係る市分担金条例に基づく漁協負担金については、漁協の財務状況を踏まえた時限的な軽減措置の検討余地があることから、事業実施に関する漁協意向を把握することとする。	評価責任者 前田 竜哉
-------------------	--	----------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H30実績	R01実績	R02実績	R03計画
① 水産業振興事業	漁協に補助金を交付し、漁業生産物の効率的かつ安定的な供給の確保及び漁業生産力向上・団体の経営状況の改善を図る。	補助金交付漁協数	漁協	***	3	3	4
② 水産多面的機能発揮対策協議会負担金	漁協と連携した漁港とその周辺での清掃活動を行う。	活動従事者数	人	1,300	1,300	1300	1300
③ 菊池川稚魚放流事業	漁協に補助金を交付し、鮎・鯉・手長えび等の稚魚を放流させる。	稚魚放流量	匹	506,327	490,685	690808	690000

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算
対象(漁業者数(正組合員))	217	181	161	161
投入コスト合計(千円)	4,750	6,732	7,753	11,145
対象1単位あたりのコスト(千円)	22	37	48	69
コスト評価(対前年比)	***	58.85% (↓)	77.24% (↓)	69.56% (↓)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H30目標	R01目標	R02目標	R03目標
			H30実績	R01実績	R02実績	
1 水産物漁獲量	主要水産物(アサリ)漁獲量	t	27 0	27 0	27 0	27
2 海苔生産量	海苔生産枚数	千枚	152,907 127,824	145,846 161522	161522 158348	149000
* 成果未達成時の理由		アサリの生産は皆無だった。海苔生産枚数は、漁期終盤にかけて気温上昇した影響で営業期間の短縮を余儀なくされたため前年度より減少した。				

《事務事業の評価》

	評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/> ・市が実施するよう法令等で義務づけられている <input type="checkbox"/> ・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ多くの対象の生活や活動等に支障をきたす <input type="checkbox"/> ・市が事業へ関与する必要が薄れている <input type="checkbox"/> ・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> ・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる <input checked="" type="checkbox"/> ・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> ・事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> ・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い b
	効率性 【22】	<input type="checkbox"/> ・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> ・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> ・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である <input type="checkbox"/> ・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> ・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
有効性 【23】		<input checked="" type="checkbox"/> ・成果指標を設定している <input type="checkbox"/> ・成果指標の目標値を達成した <input type="checkbox"/> ・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない <input type="checkbox"/> ・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる <input type="checkbox"/> ・法定事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> ・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> ・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> ・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある
	公平性	<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる ・負担率【 0.00 %】 <input checked="" type="checkbox"/> ・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input checked="" type="checkbox"/> ・設定できない理由( 受益者負担はなじまない ) 【24】

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	企業の協力を得て、管内4漁協のアサリ漁場に水産肥料を施肥しアサリを大きくする試験施工を行い水質環境の改善等一定の成果は確認できたがアサリ漁獲に直結しなかった。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 終了
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	低迷が続くアサリ資源について、よりよい効果が発現する対策やアサリ資源に変わる事業について産官学等と連携模索し、早期改善を実現したい。		
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名) <input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		
総合判定	B		

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	アサリ資源の回復には漁場再生は不可欠なため、様々な改善策を県、漁協、民間企業及び大学等との連携・協働により前進させる時期にある。漁業所得の確保・向上に向け新たな水産分野への生産転換等も、産官学等連携により可能性を探究していく。	評価責任者 前田 竜哉
-------------------	---	----------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H30実績	R01実績	R02実績	R03計画
① 滑石漁協しゅんせつ機維持管理補助事業	滑石漁協に補助金を交付し、しゅんせつ船の管理及びしゅんせつを行う。	しゅんせつ回数	回	68	61	0	61
② 漁港台帳整備業務	全漁港の台帳データシステム整備を行う。	台帳補正件数	箇所	1	1	1	1
③ 漁港維持管理業務	漁港施設の維持管理や軽微な施設の補修を行う。	補修等箇所数	件	8	9	9	5

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算			
	対象(漁協組合員数(正組合員数))	217	181	161	161		
	投入コスト合計(千円)	6,364	8,740	9,300	7,425		
	対象1単位あたりのコスト(千円)	29	48	58	46		
コスト評価(対前年比)	***	60.73%	(↓)	83.59%	(↓)	125.25%	(↑)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H30目標	R01目標	R02目標	R03目標
			H30実績	R01実績	R02実績	
1 しゅんせつが必要な面積	しゅんせつ面積	m <sup>2</sup>	2600	2600	2600	2600
			3250	2000	0	
2						

\* 成果未達成時の理由 滑石漁協浚渫船による浚渫は、本市の滑石漁港浚渫工事の実施が未確定であったため例年通り実施する計画であったが、浚渫工事が実施されたため滑石漁協の理事会において令和2年度は実施は不要と判断されたため中止となった。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	・市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ多くの対象の生活や活動等に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
有効性 【23】	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標を設定している	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・成果指標の目標値を達成した	
公平性	<input checked="" type="checkbox"/>	・受益者負担がある ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる	負担率【 1.05 %】 【24】
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input type="checkbox"/> ・設定できない理由( )	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	特になし。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続	<input type="checkbox"/> 縮小して継続
	<input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終了
総合判定	C		
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	全体的に漁港施設の老朽化が進んでいる中で、従来の事後保全型維持管理に加え施設の延命化を図る予防保全型の維持管理にも取り組んでいく。		
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名)		
	<input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	老朽化の著しい一部の漁港(避難港含む)について、引き続き、従来の事後保全から予防保全へと順次移行することとする。また長洲町域に属する新川漁港避難港の維持管理について、長洲町との間で早期に明確な管理区分と方法等を取り交わすこととする。	評価責任者 前田 竜哉
----------------------	--	----------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H30実績	R01実績	R02実績	R03計画
① 滑石漁港機能増進事業委託	滑石漁港(滑石)水域施設の機能保全計画の見直しを行うため、土砂堆積低減検討として現地調査及び漂砂・堆積シミュレーションを実施し、検討結果を基に漁港施設の改修を行う。	業務委託件数	件	***	1	1	***
② 漁港深淺測量業務	委託により漁港内しゅんせつ土砂の堆積状況調査を行う。	業務委託件数	件	3	4	1	2
③ 漁港土質調査業務	次年度しゅんせつ工事を行う泊地について土質調査を行う。	委託件数	件	1	2	1	1

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算
	対象(漁協組合員数(正組合員数))	217	181	161
投入コスト合計(千円)	14,319	19,926	22,688	18,451
対象1単位あたりのコスト(千円)	66	110	141	115
コスト評価(対前年比)	***	59.94% (↓)	78.12% (↓)	122.96% (↑)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H30目標	R01目標	R02目標	R03目標
			H30実績	R01実績	R02実績	
1 漁港利用漁船等隻数	漁港利用漁船等隻数	隻	650	650	650	565
2			628	608	565	

\* 成果未達成時の理由 高齢化等により廃業する人数が、新たに漁業を始める人数を上回っているため。

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	・市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ多くの対象の生活や活動等に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	・市が事業へ関与する必要が薄れている	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
公平性	<input type="checkbox"/>	・事業開始当初の目的から変化してきている	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・事業開始当初の目的から変化してきている	
		・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	
公平性	<input checked="" type="checkbox"/>	・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
公平性	<input type="checkbox"/>	・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
公平性	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標を設定している	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・成果指標の目標値を達成した	
公平性	<input type="checkbox"/>	・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	
公平性	<input type="checkbox"/>	・法定事務であり成果は求めにくい	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
公平性	<input type="checkbox"/>	・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる	公平性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input type="checkbox"/> ・設定できない理由( )	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	港内の土砂等の堆積状況が著しい滑石漁港について、土砂堆積低減検討として現地調査及び漂砂・堆積シミュレーションの結果、施設の改修よりも現状の浚渫事業を継続していく方法が最良であるとの結果を得た。		
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続	<input type="checkbox"/> 縮小して継続
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容 【27】	<input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終了
次年度への予算反映(連動)	総合判定 C		
	深淺測量を泊地の浚渫年度の直前及び中間年度に実施することで、より正確な土量推計を行い適切な事業設計とする。		
	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名)		
	<input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)		

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	年次計画に基づく漁港しゅんせつは、泊地の堆積土量をより正確に把握し設計に用いなければならないため、確度の高い深淺測量となる実施時期を見直す。横島漁港冠水対策は、財政的により優位な事業を活用し早期完了を目指す。	評価責任者 前田 竜哉
----------------------	--	----------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H30実績	R01実績	R02実績	R03計画
① 大正開漁港(旧港)水産物供給基盤機能保全事業(浚渫)	大正開漁港機能保全計画に基づき機能保全対策(泊地浚渫工事)を行う。	工事箇所数	箇所	***	***	1	***
② 玉名漁港(滑石)水産物供給基盤機能保全事業(浚渫)	玉名漁港機能保全計画に基づき機能保全対策(泊地浚渫工事)を行う。	工事箇所数	箇所	***	***	1	***
③							

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算
	対象(漁協組合員数(正組合員数))	217	181	161
投入コスト合計(千円)	289,148	117,104	212,545	169,199
対象1単位あたりのコスト(千円)	1,332	647	1,320	1,051
コスト評価(対前年比)	***	205.95% (↑)	49.01% (↓)	125.62% (↑)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H30目標	R01目標	R02目標	R03目標
			H30実績	R01実績	R02実績	
1 機能保全計画策定率	機能保全計画策定済漁港数/漁港数×100	%	100	100	100	100
2 機能保全計画に基づき補修・保全した施設数	機能保全計画に基づき補修・保全した施設の累計	箇所	1	1	2	1
* 成果未達成時の理由						

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	・市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・法令等で義務づけられていないが、実施しなければ多くの対象の生活や活動等に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	・市が事業へ関与する必要が薄れている	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
有効性 【23】	<input type="checkbox"/>	・利用者、対象者の減少など、市民ニーズの低下傾向がみられる	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
公平性	<input type="checkbox"/>	・事業開始当初の目的から変化してきている	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	・厳しい財政状況の中、実施する緊急性が認められない	
妥当性	<input type="checkbox"/>	・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	c
	<input checked="" type="checkbox"/>	・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
有効性	<input type="checkbox"/>	・民間など、他の実施主体を活用し、成果を維持したまま事業費等の削減が可能である	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	・電子化等の事務改善、契約や人員の見直し、市の負担(補助)割合を下げること等により、コスト削減の余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	・サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	c
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
妥当性	<input type="checkbox"/>	・成果指標を設定している	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標の目標値を達成した	
有効性	<input type="checkbox"/>	・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	
公平性	<input type="checkbox"/>	・法定事務であり成果は求めにくい	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
妥当性	<input type="checkbox"/>	・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	b
	<input checked="" type="checkbox"/>	・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/>	・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> 金額が妥当 <input type="checkbox"/> 金額が高すぎる、または安すぎる	0.00 %
	<input checked="" type="checkbox"/>	・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> 設定できる <input checked="" type="checkbox"/> 設定できない理由(受益者負担はなじまない) 【24】	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	浚渫土処分について海洋投入及び漁場再生を行うべく県、関係市と協議を重ねたが、当該年度においては方針決定には至らなかった。			
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続	<input type="checkbox"/> 縮小して継続	総合判定 B
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	<input checked="" type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input type="checkbox"/> 終了	
次年度への予算反映(連動) 【27】	海洋投入及び漁場再生の検討余地を残しつつ、並行して関係市と連携して処分場建設に向けた事務協議を行うとともに、土砂処分先の見直しによる事業効率性の向上について検討する。			
	<input type="checkbox"/> 増額	(細事業名)		
	<input type="checkbox"/> 減額	(細事業名)		

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	毎年多大な事業費を要する漁港しゅんせつ事業は市財政面に与える影響は少なくは無いため、県や関係市、漁協等との協議により中長期的な改善策について早期に結論付けると共に、その具体的な事業構築についても急ぎ着手することとする。	評価責任者 前田 竜哉
-------------------	---	----------------



《事務事業の手段と活動指標》 【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H30実績	R01実績	R02実績	R03計画
①【漁港冠水対策】玉名漁港(滑石)整備事業(物揚場)	物揚場を嵩上げし、越水被害を防止する。	整備率	%	***	***	100	***
②【漁港冠水対策】玉名漁港(大浜)整備事業(物揚場)	物揚場を嵩上げし、越水被害を防止する。	整備率	%	***	***	100	***
③							

《コスト評価による年度比較》 【19】

コスト評価	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	
	対象(整備漁港施設)	0	0	2	0
投入コスト合計(千円)	0	0	67,120	0	
対象1単位あたりのコスト(千円)	0	0	33,560	0	
コスト評価(対前年比)	***	0.00%	(-)	0.00%	(-)

《事務事業の成果》 【20】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H30目標	R01目標	R02目標	R03目標
			H30実績	R01実績	R02実績	
1 玉名漁港(滑石) 整備率	施工済区間 / 全体延長	%	-	-	100	-
2 玉名漁港(大浜) 整備率	施工済区間 / 全体延長	%	-	-	100	-

\* 成果未達成時の理由

《事務事業の評価》

		評価の視点	評価結果
妥当性 【21】	<input type="checkbox"/>	・市が実施するよう法令等で義務づけられている	妥当性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・法令等で義務づけられてないが、実施しなければ多くの対象の生活や活動等に支障をきたす	
効率性 【22】	<input type="checkbox"/>	・コスト評価の対前年度比は、前年度と比較して改善している	効率性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input type="checkbox"/>	・直近2年で、コスト削減の努力・または検討はしているが、下がる余地は小さい	
有効性 【23】	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標を設定している	有効性評価 a 高い b やや高い c やや低い d 低い
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標の目標値を達成した	
公平性	<input type="checkbox"/>	・現在の事業を継続しても成果の向上は期待できない	b
	<input type="checkbox"/>	・手段を工夫することで、さらに成果を向上させることができる	
	<input type="checkbox"/>	・法定事務であり成果は求めにくい	
	<input type="checkbox"/>	・事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
	<input type="checkbox"/>	・事業には地域住民、NPO、ボランティア団体等が参画している	
	<input type="checkbox"/>	・国/県/民間が行っている事業と重複、または、他の部等に類似・重複した事務事業があるため、事業内容を見直す余地がある	
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担がある ⇒ <input type="checkbox"/> ・金額が妥当 <input type="checkbox"/> ・金額が高すぎる、または安すぎる	・負担率【 0.00 %】
	<input type="checkbox"/>	・受益者負担が無い ⇒ <input type="checkbox"/> ・設定できる <input type="checkbox"/> ・設定できない理由( )	【24】

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対して見直し・改善状況 【25】	前回ふりかえりの該当なし			
今後の方向性 【26】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続	<input type="checkbox"/> 縮小して継続	総合判定 B
	<input type="checkbox"/> 執行方法の改善	<input type="checkbox"/> 休止・廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 終了	
今後の方向性に対する見直し・改善の具体的内容	事業終了			
次年度への予算反映(連動) 【27】	<input type="checkbox"/> ・増額 (細事業名)			
	<input type="checkbox"/> ・減額 (細事業名)			

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見 【28】	地球温暖化等の影響から有明海でも海水面の水位上昇は明らかであり、市内漁港の内冠水対策が未実施の横島漁港については、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づく緊急自然災害防止対策事業を活用し、早期完了に向け計画的に実施する。	評価責任者 前田 竜哉
-------------------	---	----------------